

Exhibition

SINDIKAT CAMPURSARI [JAKARTA]
ESCAPE FROM THE SEA [KUALA LUMPUR]
ALMOST THERE [MANILA]
MODE OF LIAISONS [BANGKOK]
and more

CONDITION REPORT PROJECT

Location

JAKARTA
SURABAYA
YOGYAKARTA
KUALA LUMPUR
PENANG
MANILA
BANGKOK
CHIANG MAI
HANOI
PHNOM PENH
VIENTIANE
YANGON

WHAT IS SOUTHEAST ASIA?

国際交流基金アジアセンターは、東南アジアと日本の若手キュレーターが協働で行う美術プロジェクト「Condition Report」を、東南アジア各地で開催します。

本プロジェクトは、インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスと日本のキュレーター21名が4つのグループに分かれ、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、バンコクで行う4つの大型協働展と、次世代キュレーター14名による個別のローカル展で構成されています。そして、共通のテーマは、「東南アジアとは何か」です。

東南アジアは、地理的条件はもとより多様な民族、宗教、言語をもとに多くの国々が西洋の植民地支配と戦後の独立、東西冷戦構造下での国民国家形成の過程を経て、近年の経済発展によって大きく社会・文化が変貌しつつあります。1967年結成のASEAN（東南アジア諸国連合）は当初5カ国から始まり現在では10カ国で構成され、東南アジアと呼ばれる地域とほぼ同一地域となりました。地域概念としての東南アジアは、自明のこととして存在したのではなく、幾多の歴史を経て形成されてきたものなのです。「Condition Report」は、美術プロジェクトを通じて、キュレーターとアーティストがそのことを改めて東南アジア域内から考えてみようとするプロジェクトです。

「Condition Report」の第一弾は、まずは「Sindikat Campursari | Mashup Syndicate」(ジャカルタ/1月)を皮切りに、「ESCAPE from the SEA」(クアラルンプール/2月)、「Almost There」(マニラ/3月)、そして「Mode of Liaisons」(バンコク/3月)で開催される協働展です。

そして第二弾は、2017年後半に、ジャカルタ、スラバヤ、ジョグジャカルタ、クアラルンプール、ペナン、マニラ、バンコク、チェンマイ、ハノイ、プノンペン、ピエンチャン、ヤンゴンで固有のテーマをもとに実施します。

本プロジェクトは、「東南アジアとは何か」という大きなテーマの下、参加するキュレーターとアーティストがいかにお互いの社会、文化、歴史、そして関係性を理解し、どのように地域のアートシーンに協働して貢献しているかという挑戦でもあります。

どうぞご期待ください。



[ジャカルタ | インドネシア]

ジャカルタ日本文化センター
担当: 加藤、油井、ディアナ

The Japan Foundation, Jakarta
Summitmas I, 2-3F, Jalan
Jenderal Sudirman, Kav.61-62
Jakarta Selatan 12190,
Indonesia
Tel: 62-21-520-1266
Fax: 62-21-525-1750

[クアラルンプール | マレーシア]

クアラルンプール日本文化センター
担当: 久貝

The Japan Foundation,
Kuala Lumpur
18th Fl. Northpoint Block B
Mid-Valley City, No.1
Medan Syed Putra 59200,
Kuala Lumpur, Malaysia
Tel: 60-3-2284-6228
Fax: 60-3-2287-5859
<http://www.jfkl.org.my> (英語)

[マニラ | フィリピン]

マニラ日本文化センター
担当: 桶田、オカンボ

The Japan Foundation, Manila
23rd Fl. Pacific Star Building,
Sen. Gil Puyat Avenue
Corner Makati Avenue, Makati City
Metro Manila 1226, The Philippines
Tel: 63-2-811-6155
Fax: 63-2-811-6153
<http://www.jfmo.org.ph/index.php>
(英語 / 日本語)

[バンコク | タイ]

バンコク日本文化センター
担当: 鈴木、富田

The Japan Foundation, Bangkok
Serm Mit Tower 10th Fl.
159 Sukhumvit 21 (Asoke Road)
Bangkok 10110, Thailand
Tel: 66-2-260-8560
Fax: 66-2-260-8565
<http://www.jfbkk.or.th/>
(英語 / タイ語 / 日本語)

1 —— [ジャカルタ | インドネシア]

Condition Report:

Sindikata Campursari

シンディカット・チャンブルサリ

[会期] 2017年1月14日[土] - 2月14日[火]

[会場] グダグ・サリナ・エコシステム

[主催] グダグ・サリナ・エコシステム
国際交流基金アジアセンター**Ade Darmawan**

アデ・ダルマワン [ルアンパ代表]

インドネシア

Iida Shihoko

飯田志保子 [インディペンデント・キュレーター、東京藝術大学准教授]

日本

Hoo Fan Chon

フー・ファンチョン [Run Amok Gallery キュレーター]

マレーシア

Le Thuan Uyen

レー・トゥアン・ウエン [Nha San Collective キュレーター]

ベトナム

Vittavin Leelavanachai

ウィタウィン・リーラーワナーチェイ [グラフィックデザイナー]

タイ

Yoshizaki Kazuhiko

吉崎和彦 [東京都現代美術館学芸員]

日本

2 —— [クアラルンプール | マレーシア]

Condition Report:

ESCAPE from the SEA

[会期] 2017年2月24日[金] - 4月23日[日]

[会場] 国立美術館、アート・プリンティング・ワークス

[主催] 国立美術館、アート・プリンティング・ワークス
国際交流基金アジアセンター**Yap Sau Bin**

ヤップ・ソービン [マルチメディア大学講師、キュレーター]

マレーシア

Hattori Hiroyuki

服部浩之 [インディペンデント・キュレーター]

日本

Goh Sze Ying

ゴー・ズイーイン [シンガポール国立美術館アシスタント・キュレーター]

マレーシア/
シンガポール**Kurnia Yunita Rahayu**

クルニア・ユニタ・ラハユ [Serrum Gallery メンバー]

インドネシア

Alicia Sarmiento

アリシア・サルミエント [フィリピン大学]

フィリピン

Souliya Phoumivong

スリヤー・プーミウオン [アーティスト、ラオス国立美術学校講師]

ラオス

3 —— [マニラ | フィリピン]

Condition Report:

Almost There

[会期] 2017年3月2日[木] - 5月6日[土]

[会場] フィリピン大学付属ヴァルガス美術館

[主催] フィリピン大学付属ヴァルガス美術館
国際交流基金アジアセンター**Patrick D. Flores**

パトリック・D. フローレス [ヴァルガス美術館キュレーター]

フィリピン

Che Kyongfa

崔敬華 [東京都現代美術館学芸員]

日本

Ayos Purwoaji Surip Mawardi

アヨス・ブルウオアジ・スリップ・マワルディ [チボラ大学講師、キュレーター]

インドネシア

Lisa Ito-Tapang

リサ・イトウ・タパン [フィリピン大学講師]

フィリピン

Lyno Vuth

リノ・ヴュス [Sa Sa Art Project アーティスト、ディレクター]

カンボジア

4 —— [バンコク | タイ]

Condition Report:

Mode of Liaisons

[会期] 2017年3月30日[木] - 7月2日[日]

[会場] バンコク芸術文化センター

[主催] バンコク芸術文化センター
国際交流基金アジアセンター**Pichaya Aime Suphavanij**

ピチャヤー・エイム・スパワーニット [バンコク芸術文化センターキュレーター]

タイ

Aung Myat Htay

アウン・ミヤツ・テイ [アーティスト、キュレーター]

ミャンマー

Bayu Genia Krishbie

バユ・ゲニア・クリシュビー [インドネシア国立美術館アシスタント・キュレーター]

インドネシア

Nakamura Fumiko

中村史子 [愛知県美術館学芸員]

日本

Condition Report:

Sindikata Campursari

シンディカット・チャンプルサリ

[会期] 2017年1月14日[土]—2月14日[火]

[会場] グダン・サリナ・エコシステム

[主催] グダン・サリナ・エコシステム
国際交流基金アジアセンター

キュレーター

Ade Darmawan

アデ・ダルマワン

Iida Shihoko

飯田志保子

コ・キュレーター

Hoo Fan Chon

フー・ファンチョン

Le Thuan Uyen

レー・トゥアン・ウエン

Vittavin Leelavanachai

ウィタウィン・リーラーワナーチェイ

Yoshizaki Kazuhiko

吉崎和彦

出品作家/コレクティブ

Ardi Gunawan

アルディ・グナワン(インドネシア)

Arie Syarifuddin

アリエ・シャリフディン(インドネシア)

Buka Warung

ブカ・ワルン(インドネシア)

Buku Jalanan

ブック・ジャラナン(マレーシア)

Erika Ernawan

エリカ・エルナワン(インドネシア)

Kato Tsubasa

加藤翼(日本)

Lab Tanya

ラボ・タニヤ(インドネシア)

Then Group

ゼン・グループ(ベトナム)

Waft Lab

ワフト・ラボ(インドネシア)

6つのキュラトリアルな視点から、9人/組のアーティスト/コレクティブが参加します。

1: 空間/建築的視点、2: 実現可能性、3: 参加型、4: メディア/テクノロジー、5: 教育的、6: 制度的持続可能性

東南アジア、特に1998年のスハルト政権崩壊以降のインドネシアの現代美術シーンにおいて、グループを形成して共同で取り組む芸術活動が、その土地の環境や状況に対して実効力をもったものとして重要な役割を果たしてきた。本展「シンディカット・チャンプルサリ」は、集団で行う芸術実践を社会のより広範な文脈においてとらえ直すことを目指している。

展覧会タイトルにあるインドネシア語の「チャンプルサリ(Campursari)」は、ジャワ島で発展してきた音楽のジャンル名称であり、字義的には「さまざまな要素の混交」を意味する。この音楽は主にランガム・ジャワやダンドゥットといった複数の現代音楽のジャンルが混ざり合っており、伝統的なジャワのガムランに加え、ギターやキーボードといった西洋の楽器によって編成される。チャンプルサリが示すこの混交の思想は、従来の展覧会や作品制作、そして複数の参加者と協働して行う実践のあり方について思索を深めるにあたり、多様な背景をもつグループや個人で活動するアーティストたちの融合を試みる本展のコンセプトをまさに言い表している。

展覧会を通して、集団で活動するアート・コレクティブと個人で実践を行うアーティストたちが互いにどのように影響しあうのか、個々の芸術実践がこの枠組みの中でどのように発展しうるのか、また逆に個々の実践は全体に及ぼす影響を及ぼすのか。本展はそうした集団と個の相互関係に着目する。ここでは展覧会それぞれがコラボレーションと実験のためのプラットフォームとなり、すべての参加作家およびグループは、ひとつの一時的な共同体のメンバーとみなされる。

参加者は各自のプロジェクトに取り組む一方、他の参加者と協働しながらこの展覧会自体の形成に携わり、地域のコミュニティや周囲の環境に関与したり働きかけたりするため、ジャカルタでの滞在制作を行う。展覧会オープン前の三週間の準備期間中、参加者はキュレーター・チームと共に制作費の管理や、会場となるグダン・サリナ・エコシステム内の展示スペースのデザインにも従事する。ここで新たに築かれる関係性や、一時的な社会的共生から生まれるアイデアが展覧会を形成していくことになる。それらは会期中のみならず、展覧会終了後も発展し、継続されることすら望まれている。

会期中には集団による実践に関連するトークイベントやフォーラムの開催、とりわけそうした活動の発展やその社会政治的な影響に着目したトピックを予定している。

「シンディカット・チャンプルサリ」は、アート・コレクティブの紹介や表象ではなく、展覧会自体が微視的経済学の形態をとり、コレクティブという共同体のあり方の持続可能性を探求するものである。言い換えれば、間違いや失敗のリスクさえも許容しながら、アート・コレクティブが今日のように生き残ることが可能かを問う、オープン・エンデッドなプロジェクトであり、社会実験である。

[ダルマワン & 飯田]

Condition Report:

ESCAPE from the SEA

[会期] 2017年2月24日[金]—4月23日[日]

[会場] 国立美術館[NAG]、アート・プリンティング・ワークス[APW]

[主催] 国立美術館、アート・プリンティング・ワークス
国際交流基金アジアセンター

キュレーター

Yap Sau Bin

ヤップ・ソービン

Hattori Hiroyuki

服部浩之

コ・キュレーター

Goh Sze Ying

ゴー・ツイーイン

Kurnia Yunita Rahayu

クルニア・ユニタ・ラハユ

Alicia Sarmiento

アリシア・サルミエント

Souliya Phoumivong

スリヤー・プーミウオン

出品作家

Catalina Africa [APW]

カタリナ・アフリカ(フィリピン)

Aoyama Satoru [NAG]

青山悟(日本)

Au Sow Yee [NAG]

オウ・ソウイー(マレーシア)

Adam David [Online]

アダム・デビッド(フィリピン)

Han Ishu [NAG]

潘逸舟(日本)

Ismal Muntaha [NAG]

イスマル・ムンタハ(インドネシア)

Jeffrey Lim [APW/NAG]

ジェフリー・リム(マレーシア)

Pangrok Sulap [APW/NAG]

パンロック・スラップ(マレーシア)

Roslisah Ismail aka Ise [NAG]

ロスリシャム・イスマイル(イセ)(マレーシア)

Shitamichi Motoyuki [APW/NAG]

下道基行(日本)

Mark Teh [APW]

マーク・テ(マレーシア)

Tita Salina [APW]

ティタ・サリナ(インドネシア)

Yang02 + Ishige Kenta [NAG]

やんツー+石毛健太(日本)

Zai Kuning [APW]

ザイ・クニン(シンガポール)

タイトルに含まれる「SEA」は、共同体としての「東南アジア」と、国や地域の境界を描きだす「海洋」のふたつの意味を有します。本展では、「SEA」が備える、この二重の意味を問いなおすことから出発し、共同体の想像/創造におけるポリティクス(力学/政治)と、海のように不定形でとらえどころがない状態に備わる詩情(ポエティクス)を探求します。

「ESCAPE from the SEA」は、現在の世界に対する私たちの態度表明でもあります。東南アジアの多くの国々や日本は海に囲まれており海を避けることはできません。時に海は防御のための巨大な防壁にも、逆に私たちを苦しめる障害にもなります。その海を敵対視するのでもなく、単純な恵みとして全肯定するのでもなく、独自の距離感を保つことで創造的な「ESCAPE」を実践したいと思います。

「ESCAPE」には、「逃避する」という意味以外に、「野生化する」

という意味もあります。文明化により身体性が希薄になっている現代社会において「野生化=WILDERIZATION」を試みることは、新たな抜け道を発見し、経済的合理性が優先される資本主義社会のあり方に抵抗する生き方を見出す第一歩となるのではないのでしょうか。そこで、本プロジェクトは、「ESCAPE」を「野生化=WILDERIZATION」と解釈するところから始動します。

都市で飼い慣らされることを拒否し、感覚を研ぎ澄まし、最短経路を突き進むことのみをよしとせず、合理性では計れない予測不可能な行動を、野に放たれた獣のように、自由に矛盾を恐れず展開しましょう。逃避としての「ESCAPE」ではなく、野生化を試みる「ESCAPE」。監視システムを逆手に取り、身体を駆使して回り道を築くことで、詩的で政治的なアクションを起こし、創造力をもってサバイブする方法を模索します。

[ヤップ&服部]

ESCAPE from the SEA

Condition Report:

Almost There

[会期] 2017年3月2日[木]—5月6日[土]

[会場] フィリピン大学付属ヴァルガス美術館

[主催] フィリピン大学付属ヴァルガス美術館
国際交流基金アジアセンター

キュレーター

Patrick D. Flores

パトリック・D. フローレス

Che Kyongfa

崔敬華

コ・キュレーター

Ayos Purwoaji Surip Mawardi

アヨス・ブルウォアジ・スリップ・マワルディ

Lyno Vuth

リノ・ヴュス

Lisa Ito-Tapang

リサ・イトウ・タパン

この展覧会では、フィリピンの一地方で見られる光景や精神生活についてのある研究で用いられた、「親密さと力」という概念に応答し、探求を試みる。人類学者のフェネラ・カネルは、他者との親近感や共感を形成するプロセスを明らかにするためにこの概念を提示した。そのプロセスは常に、模倣しても反復せず、帰属しながらも同化しない努力と、経験を共有するために互いに投じる努力を必要とする。同時にそれは、利害関係や、承認の欲求や、表出の熱望に駆られてもいる。本展は、この隔たりと近しさの間にある緊張関係を探ろうとするものである。よって「Almost There」というタイトルは、居場所や目的地にまだ達しない距離、あるいは「極端な近さ」を表している。展覧会では、このテーマに基づいて選ばれたアーティストによる絵画、立体、映像、インスタレーション、パフォーマンスなど、多様なメディアを用いた作品やプロジェクトが展示されると同時に、本展に関連する具体的な文脈や展示作品に応答する3人のキュレーター(アヨス・ブルウォアジ・スリップ・マワルディ、リサ・イトウ・タパン、リノ・ヴュス)によるプロジェクトも紹介する。これらの作品やプロジェクトの多くは、展示室の外で人々と直接的に関わり合う要素を含む。ヴァルガス美術館前の芝地には、建築家である能作文徳とロサリオ・エンカルナシオン=タンによるプラットフォームが設置され、会期中、パフォーマンス、レクチャー、ディスカッション、ツアー等が開催される予定。

[フローレス&崔]

出品作家

Universe Baldoza

ユニヴァース・バルドーサ(フィリピン)

Carolina Caycedo

カロリーナ・カイセド(英国/コロンビア/米国)

Cian Dayrit

シアン・ダイリット(フィリピン)

Ho Rui An

ホー・ルイ・アン(シンガポール)

Winner Jumalon

ウィナー・フマロン(フィリピン)

Kapwani Kiwanga

カプワニ・キワンガ(カナダ/フランス)

Runo Lagomarsino

ルノ・ラゴマルシーノ(スウェーデン/ブラジル)

An-My Lê

アン・ミー・レー(ベトナム/米国)

Miyagi Futoshi

ミヤギフトシ(日本)

Nousaku Fuminori

能作文徳(日本)

Philippine Educational Theater Association/PETA

(フィリピン)

Shen Shaomin

シェン・シャオミン(中国)

Maria Taniguchi

マリア・タニグチ(フィリピン)

Adrienne Vergara

エイドリアン・ヴェルガラ(フィリピン)

Almost There

Condition Report:

Mode of Liaisons

[会期] 2017年3月30日[木]—7月2日[日]

[会場] バンコク芸術文化センター

[主催] バンコク芸術文化センター
国際交流基金アジアセンター

キュレーター

Pichaya Aime Suphavanij

ピチャヤー・エイム・スパーワニット

コ・キュレーター

Aung Myat Htay

アウン・ミヤツ・テイ

Bayu Genia Krishbie

バユ・ゲニア・クリシュビー

Nakamura Fumiko

中村史子

展覧会は、「方法としてのハイブリディティ（異種混合性）」という概念をキュレーションの方法論として捉えます。様々な領域——アカデミックな分野、表現媒体、美的言語——を迂回し、介在し、翻訳し、交渉することによって生まれる、社会における思考、表現、創造などの様式を探ることを目的としています。ある出発点に立った時、それらは様々なコミュニティや個人に関わる具体的な社会的文脈に応答します。その方法は弁証法的なプロセスによるものです。個々の文化を比較し、それらがどのように接触し、交わることで、どのように変容し、不調和と同じだけの突破口や希望を伴いながら衝突するのかに着目しています。本展でいうハイブリディティとは方法として機能し、また、差異と接し、それを組み込むという終わりのないプロセスを持つ人類学的視点からの焦点です。それは、全ての文化において基本的な条件であり、あらゆる干渉や単一のアイデンティティを否定するものです。よってハイブリディティは、東南アジアという文脈において、芸術のコンテンツとなり、また、キュレーションの道具となるのです。

[スパーワニット]

出品作家

Korakrit Arunondchai

コラクリット・アルナーノンチャイ(タイ)

Au Sow Yee

オウ・ソウイー (マレーシア)

Universe Baldoza

ユニヴァース・バルドーサ(フィリピン)

Ho Rui An

ホー・ルイ・アン(シンガポール)

Miyagi Futoshi

ミヤギフトシ(日本)

Roslislam Ismail aka Ise

ロスリシャム・イスマイル(イセ)(マレーシア)

Albert Samreth

アルバート・サムレス(米国)

Ukrit Sa-nguanhai

ウクリット・サグワンハイ(タイ)

Sindikampursari

シンディカット・チャンプルサリ(インドネシア)

Tamura Yuichiro

田村友一郎(日本)

Mark Teh

マーク・テ(マレーシア)

Rirkrit Tiravanija

リクリット・ティーラワニット(タイ/米国)

Zai Kuning

ザイ・クニン(シンガポール)

本展は他の3展のキュレーターの協力を得て実施。

仕組みとプロセス

FY2015 [2015年度]

公募



ワークショップ/選抜



調査/
ワーキングセミナー/
グルーピング

キュレーター・ワークショップ 東南アジア5カ国(2015年11月-12月)

公募に申請した35才以下のキュレーターのうち書類選考によって選ばれた10名が

「東南アジアとは何か?」のテーマに沿って展覧会企画を発表、

キュレーターとの議論の後に1~3名の優秀者を選抜し、コ・キュレーターとして本プロジェクトに参加

- クアラルンプール (11月24日-11月26日)
- マニラ (11月28日-11月30日)
- ジャカルタ (12月2日-12月4日)
- ハノイ (12月8日-12月9日)
- バンコク (12月18日-12月20日)



日本での美術調査とワーキングセミナー(2016年2月22日-3月6日)

- 日本国内の美術館・展覧会視察、レクチャー・聴講と美術関係者との面談を通じた美術状況の理解

- 協働展の企画内容の立案と議論

- 4つのグループ分け(キュレーター+コ・キュレーター)



FY2016 [2016年度]

調査



計画



準備



協働展

東南アジア4カ国でのグループ別美術調査(2016年5月-8月)

- マレーシア 5月23日-5月29日(クアラルンプール、ペナン、コタキナバル)
- フィリピン 6月16日-6月24日(マニラ、バコロド)
- インドネシア 6月20日-6月29日(ジャカルタ、バンドゥン、ジャティワング、ジョグジャカルタ)
- タイ 8月25日-8月31日(バンコク、チェンマイ、ラチャブリ)

- 各国の美術状況の理解

- 協働展の企画内容の確定(会場、会期、出品作家・作品、役割分担)



協働展実施(2017年1月-7月)

ジャカルタ [1月14日-2月14日]	クアラルンプール [2月24日-4月23日]	マニラ [3月2日-5月6日]	バンコク [3月30日-7月2日]
------------------------	---------------------------	--------------------	----------------------

- 各国+日本のキュレーターの企画をもとに、コ・キュレーターも参画して協働展を実施



FY2017 [2017年度]

計画



準備



ローカル展



報告/成果

ローカル展実施(2017年8月-11月)

- 東南アジアの各都市で実施するコ・キュレーター企画による14の小企画展

ジャカルタ(2)	スラバヤ	ジョグジャカルタ	クアラルンプール
ペナン	マニラ(2)	バンコク	チェンマイ
ハノイ	プノンペン	ビエンチャン	ヤンゴン



キュレーター・ブックの制作(2018年3月)

- プロジェクトのまとめとして東南アジアのキュレーションに関する本を制作する